dentsu
tokyo/osaka/nagoya

NEWS RELEASE

株式会社 電通
105-7001　東京都港区東新橋 1-8-1
koho@dentsu.co.jp
https://www.dentsu.co.jp/

2026 年 3 月 11 日

電通、「気候変動インパクトに関する生活者調査」を初実施

― 気候変動の影響で生じる災害で怖いと感じるものは「異常高温」
外出頻度が減ると考える人は半数超え（53.1%）―

株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：佐野 傑）は、国内電通グループ横断でサステナビリティに関するプロジェクトを推進する組織「dentsu carbon neutral solutions」を調査主体として、全国 15～79 歳の 1 万人を対象に、「気候変動インパクトに関する生活者調査」（以下「本調査」、調査期間：2025 年 12 月 9 日～12 月 11 日）を初めて実施しました。本調査は、2021 年より実施してきた「カーボンニュートラルに関する生活者調査※」をアップデートしたもので、カーボンニュートラルにとどまらない気候変動がもたらす生活者に対する影響を把握することを目的としています。本調査で得られた主なファインディングスは次のとおりです。（詳細は次ページ以降を参照）

【主なファインディングス】

① 今後 5 年間で気候変動の影響が強まると考える人は 8 割超（82.3%）。70 代（91.2%）が最も高く、次いで 15～19 歳（87.6%）が高いが、20 代（73.1%）になると割合が大きく低下。

② 気候変動の影響で生じる災害で怖いと感じるもののトップ 3 は、「異常高温」「豪雨」「台風」。
今後 5 年間、気候変動の影響で外出頻度が減ると考える人は、半数を超える（53.1%）。

③ 気候変動の影響で変化が生じそうな生活カテゴリは、「電気やガスの利用のこと（エネルギー）」（49.8%）、「食べるもののこと（食べ物）」（47.1%）、「体や心のこと（健康・病気）」（44.8%）などが上位。

④ 気候変動影響に対する関心のカテゴリと回答者の属性を分析したところ、「食べ物」「家事」など生命維持や生活基盤に近いカテゴリは 50 代以上、「仕事や勉強」「娯楽」など余暇や自己実現に関わるカテゴリは 10～40 代、「美容」など外見に関わるカテゴリは女性、「地域」など社会システムに関わるカテゴリは男性に分布。ライフステージや性別によって、気候変動の影響に対する関心が異なる傾向が明らかに。

注）本調査における構成比（%）は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計しても 100%にならない場合があります。
※ カーボンニュートラルに関する生活者調査（https://www.dentsu.co.jp/knowledge/carbon_neutral/index.html）

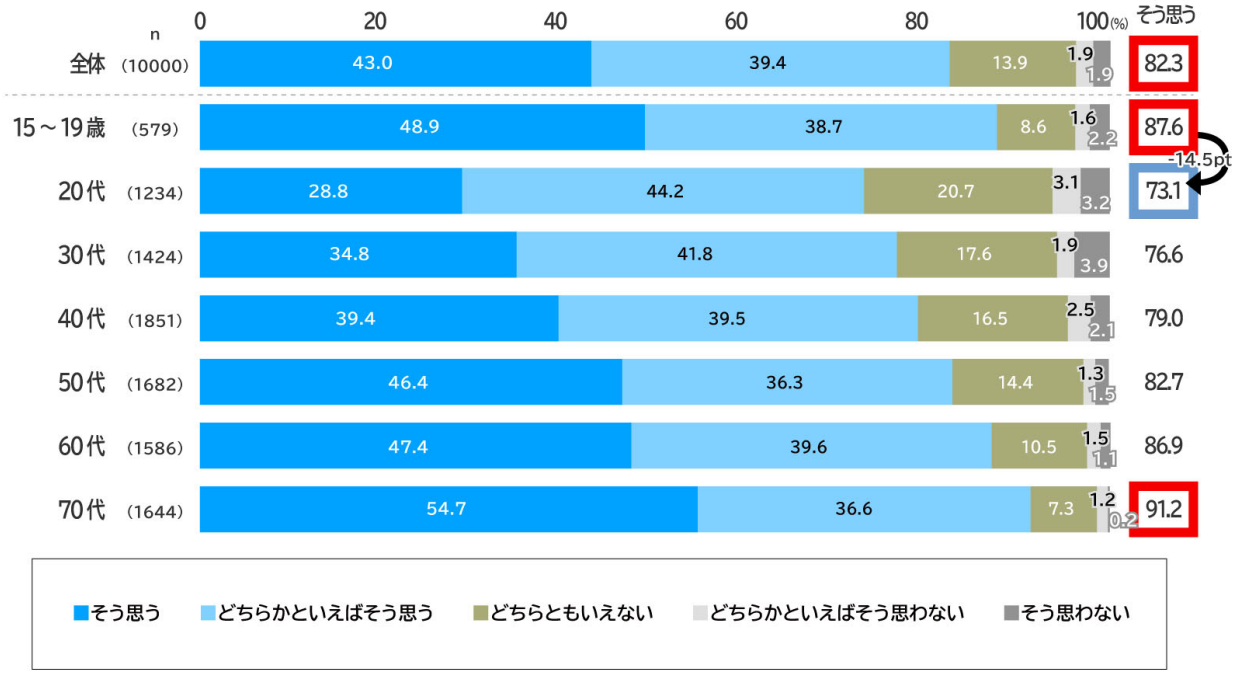
【各ファインディングスの詳細】

① 今後 5 年間で気候変動の影響が強まると考える人は 8 割超（82.3%）。70 代（91.2%）が最も高く、次いで 15～19 歳（87.6%）が高いが、20 代（73.1%）になると割合が大きく低下。

- 今後 5 年間で気候変動の影響が強まると考える人（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）は、約 8 割（82.3%）。世代別では、70 代（91.2%）、15～19 歳（87.6%）の順に高い。一方で、20 代（73.1%）は 15～19 歳（87.6%）と比べて 14.5 ポイント低く、世代別で最も低い。【図表 1】

【図表 1】

Q. あなたは、今後 5 年間で気候変動の影響が強まると思いますか。

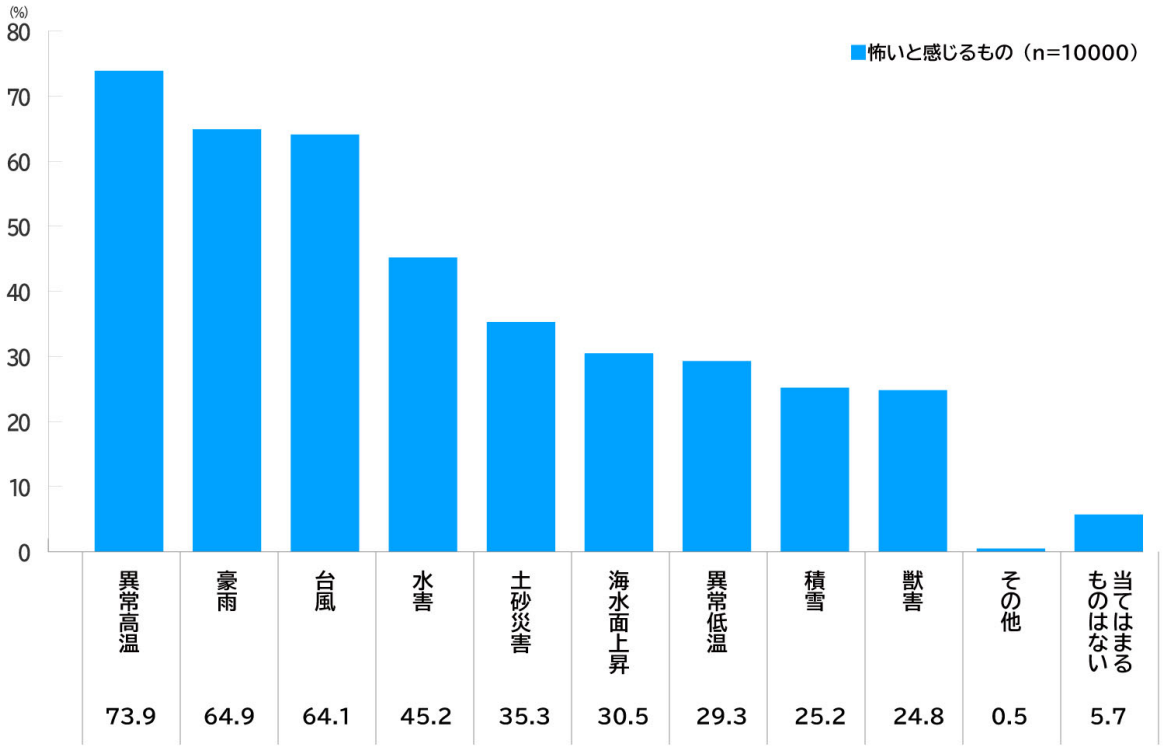


② 気候変動の影響で生じる災害で怖いと感じるもののトップ 3 は、「異常高温」「豪雨」「台風」。今後 5 年間、気候変動の影響で外出頻度が減ると考える人は、半数を超える（53.1%）。

- 気候変動の影響で生じる災害のうち、怖いと感じるものは「異常高温」（73.9%）、「豪雨」（64.9%）、「台風」（64.1%）の順で多い。【図表 2】
- 今後 5 年間、気候変動の影響で外出頻度が減ると考える人（「やや減る」「減る」の合計）は、半数を超える（53.1%）。世代別では、70 代（65.1%）、60 代（56.6%）の順で多く、特に、70 代が全体よりも 12.0 ポイント高い。【図表 3】

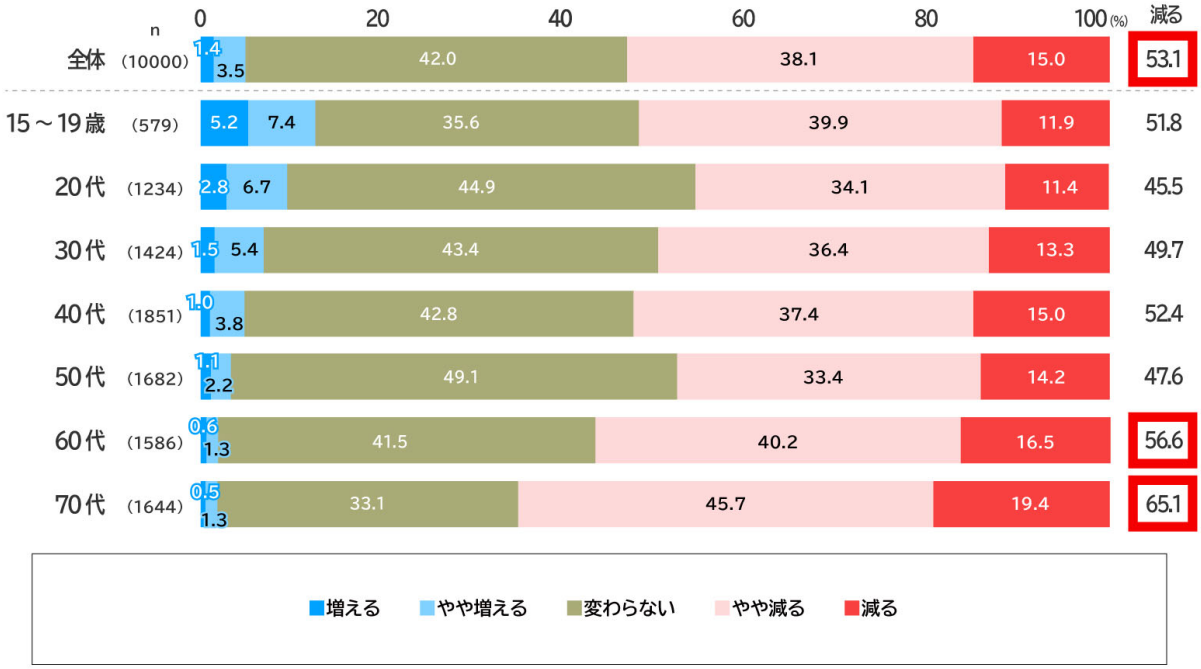
【図表 2】

Q. 気候変動の影響で生じる災害のうち、怖いと感じるものを全てお知らせください。



【図表 3】

Q. 今後 5 年間、気候変動の影響であなたの外出頻度はどのように変化すると思いますか。



dentsu
tokyo/osaka/nagoya

③ 気候変動の影響で変化が生じそうな生活カテゴリは、「電気やガスの利用のこと（エネルギー）」（49.8%）、「食べるもののこと（食べ物）」（47.1%）、「体や心のこと（健康・病気）」（44.8%）などが上位。

- 今後 5 年間で、気候変動の影響で変化が生じそうな生活カテゴリは、「電気やガスの利用のこと（エネルギー）」（49.8%）、「食べるもののこと（食べ物）」（47.1%）、「体や心のこと（健康・病気）」（44.8%）などが上位。【図表 4】
- 「電気やガスの利用のこと（エネルギー）」では、「夏が暑くなるので、冷房をたくさん使う」（60.8%）、「電気代が上がるので、生活費が増える」（54.3%）などの回答が多かった。【図表 5】

【図表 4】

Q. 今後 5 年間で、気候変動の影響であなたの生活において変化が生じそうなものを全てお知らせください。

(%)

1	電気やガスの利用のこと（エネルギー）	49.8
2	食べるもののこと（食べ物）	47.1
3	体や心のこと（健康・病気）	44.8
4	お金のこと（お金・保険・災害による損害）	35.8
5	買い物のこと（食品・生活用品）	31.6
6	住環境のこと（住まい・住むエリア）	28.6
7	移動や通勤・通学のこと（移動）	20.4
8	運動のこと（運動・運動習慣）	18.3
9	服やファッションのこと（衣服）	16.4
10	趣味や遊びのこと（娯楽）	14.6

※ n=10000
※ 上位10項目を抽出

【図表 5】

Q.「電気やガスの利用のこと（エネルギー）」について、今後 5 年間で気候変動の影響であなたの生活において変化しそうなものとして当てはまるものを全てお知らせください。

(%)

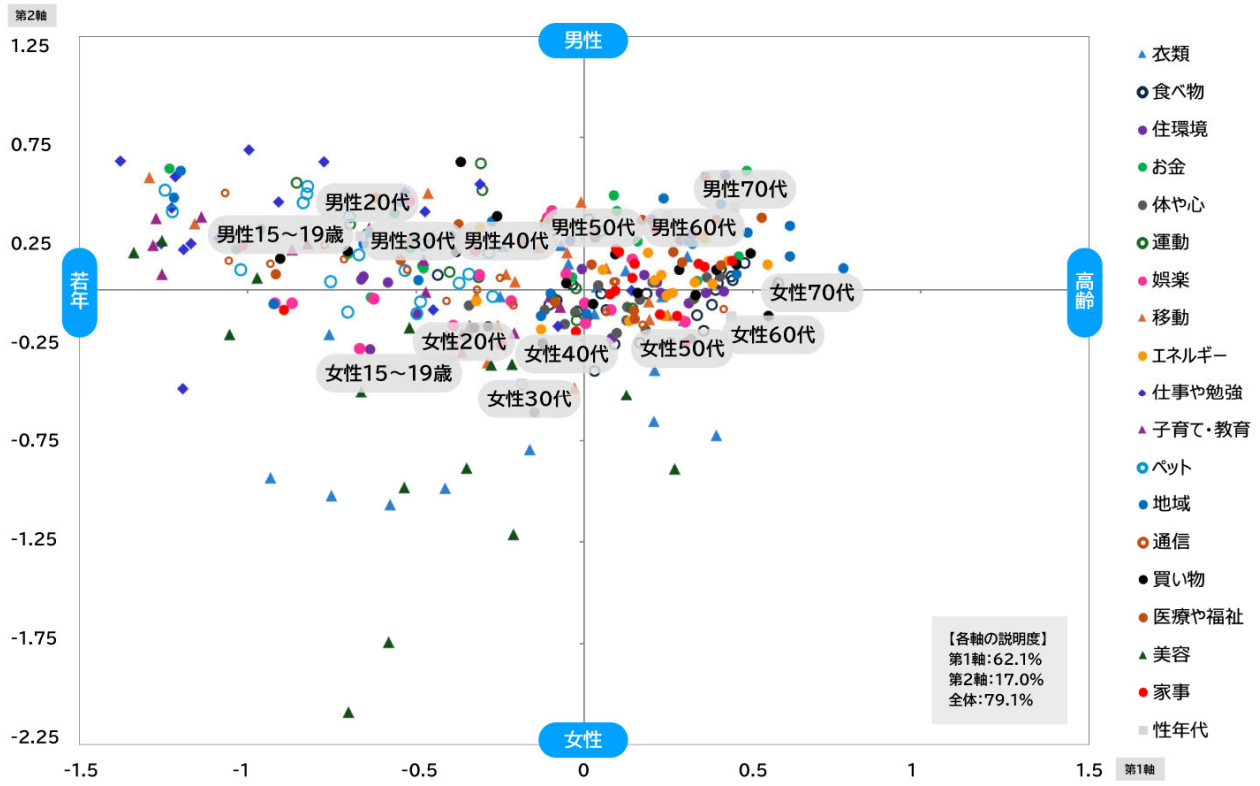
1	夏が暑くなるので、冷房をたくさん使う	60.8
2	電気代が上がるので、生活費が増える	54.3
3	熱帯夜が増えるので、夜間のエアコンの稼働時間が長くなる	41.5
4	電気料金が上がるので、節約を考えないといけない	40.0
5	冬が寒くなるので、暖房をたくさん使う	38.4
6	ガス代が上がるので、家計が苦しくなる	32.2
7	電力不足になるので、節電しないといけなくなる	30.6
8	外出が減って電気の使用量が増え、電気代が高くなる	29.3
9	暑さで冷蔵庫を使うので、電気代がさらに上がる	23.0
10	水不足になるので、水道が止まりやすくなる	19.5

※ n=10000
※ 上位10項目を抽出

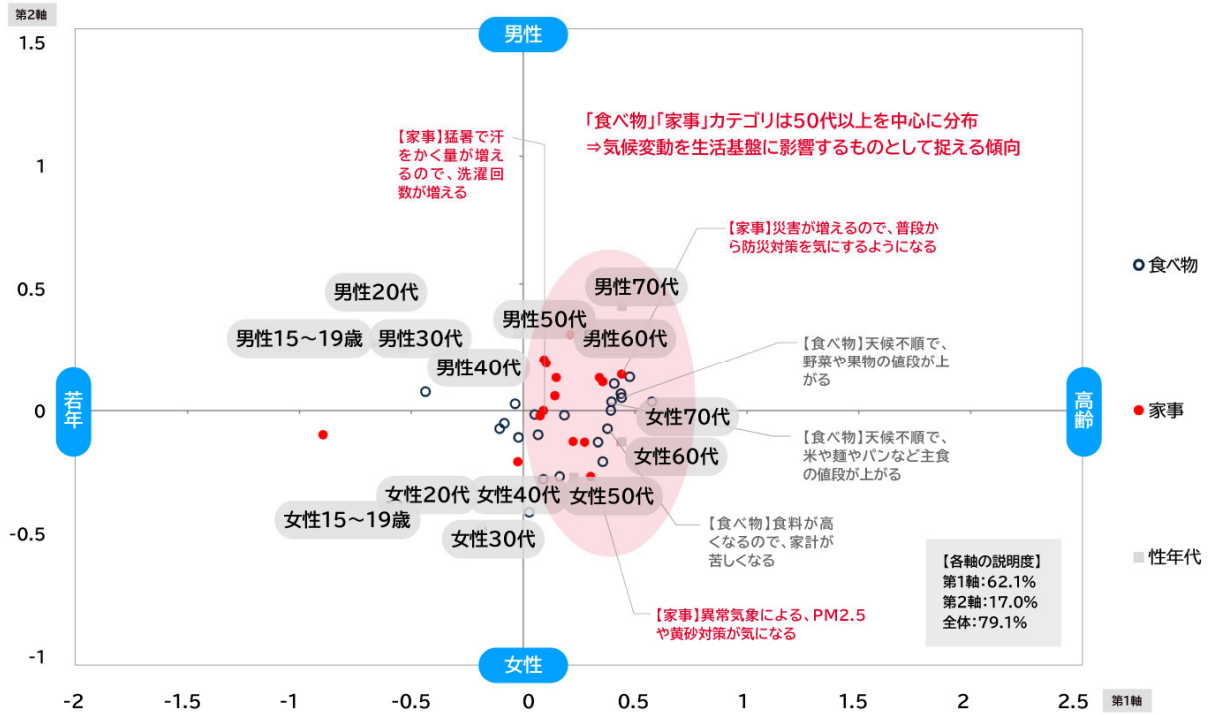
④ 気候変動影響に対する関心のカテゴリと回答者の属性を分析したところ、「食べ物」「家事」など生命維持や生活基盤に近いカテゴリは 50 代以上、「仕事や勉強」「娯楽」など余暇や自己実現に関わるカテゴリは 10～40 代、「美容」など外見に関わるカテゴリは女性、「地域」など社会システムに関わるカテゴリは男性に分布。ライフステージや性別によって、気候変動の影響に対する関心が異なる傾向が明らかに。

- コレスポンデンス分析※1 の結果、第一軸は年代差、第二軸は性別差を反映している構造となった。気候変動影響に対する関心カテゴリは、ライフステージおよび性別に沿っていると示唆される。【図表 6】
- さらに、各カテゴリの分布を確認すると、「食べ物」「家事」など生命維持や生活基盤に近いカテゴリは 50 代以上を中心に配置され、「仕事や勉強」「娯楽」など余暇活動や自己実現に関わるカテゴリは 10～40 代に広く分布している。また、「美容」など外見に関わるカテゴリは女性に、「地域」など社会システムに関わるカテゴリは男性に分布。【図表 7】【図表 8】【図表 9】

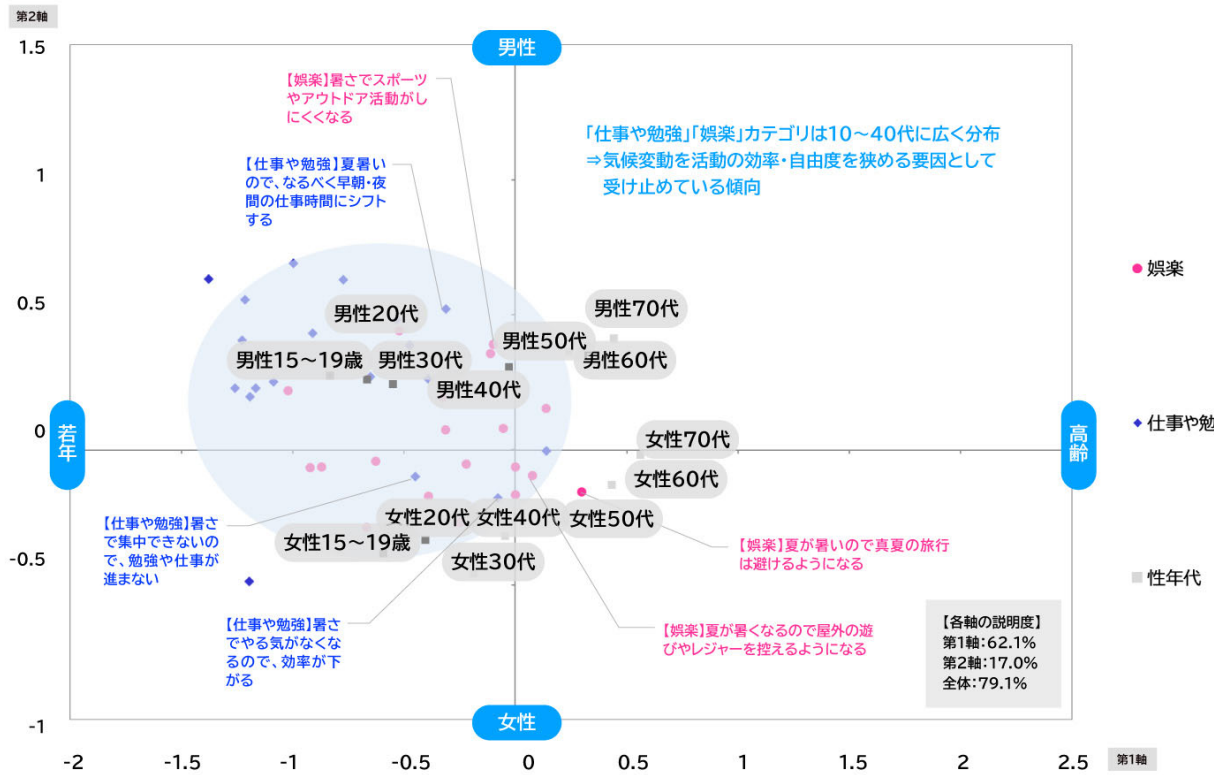
【図表 6】



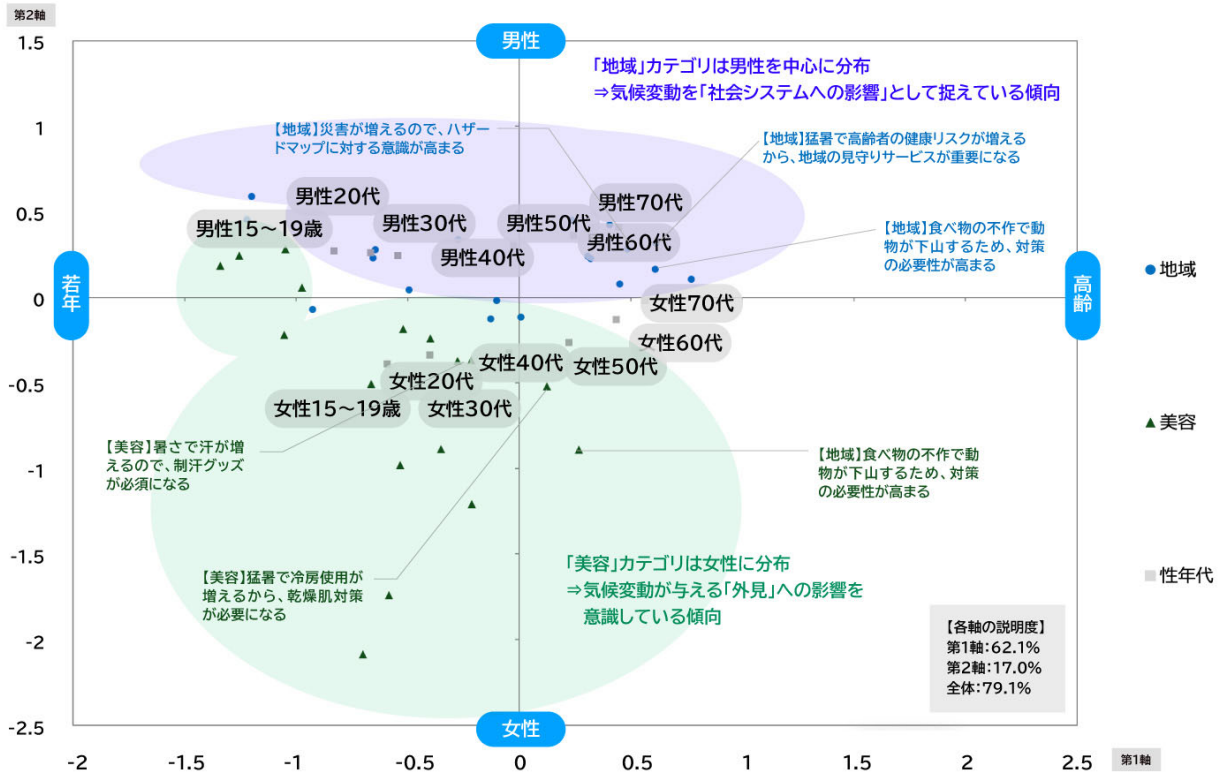
【図表 7】


第2軸
第1軸
男性
女性
若年
高齢
「食べ物」「家事」カテゴリは50代以上を中心に分布
⇒気候変動を生活基盤に影響するものとして捉える傾向
【家事】猛暑で汗をかく量が増えるので、洗濯回数が増える
【家事】災害が増えるので、普段から防災対策を気にするようになる
【食べ物】天候不順で、野菜や果物の値段が上がる
【食べ物】天候不順で、米や麺やパンなど主食の値段が上がる
【食べ物】食料が高くなるので、家計が苦しくなる
【家事】異常気象による、PM2.5や黄砂対策が気になる
男性20代
男性15～19歳
男性30代
男性40代
男性50代
男性60代
男性70代
女性70代
女性60代
女性20代
女性40代
女性50代
女性15～19歳
女性30代
食べ物
家事
性年代
【各軸の説明度】
第1軸:62.1%
第2軸:17.0%
全体:79.1%

【図表 8】


第2軸
第1軸
男性
女性
若年
高齢
「仕事や勉強」「娯楽」カテゴリは10～40代に広く分布
⇒気候変動を活動の効率・自由度を狭める要因として受け止めている傾向
【娯楽】暑さでスポーツやアウトドア活動がしにくくなる
【仕事や勉強】夏暑いので、なるべく早朝・夜間の仕事時間にシフトする
【仕事や勉強】暑さで集中できないので、勉強や仕事が進まない
【仕事や勉強】暑さでやる気がなくなるので、効率が下がる
【娯楽】夏が暑いので真夏の旅行は避けるようになる
【娯楽】夏が暑くなるので屋外の遊びやレジャーを控えるようになる
男性20代
男性15～19歳
男性30代
男性40代
男性50代
男性60代
男性70代
女性70代
女性60代
女性20代
女性40代
女性50代
女性15～19歳
女性30代
娯楽
仕事や勉強
性年代
【各軸の説明度】
第1軸:62.1%
第2軸:17.0%
全体:79.1%

【図表 9】



【調査担当者の解説】

今後 5 年間で気候変動の影響が強まると考える人は 8 割を超えており、その問題意識は社会全体で広く共有されています。 また、気候変動がもたらす影響の受け止め方には世代や性別による違いがみられました。例えば、高齢層ほど、気候変動が生活基盤を揺るがす「暮らしそのものへの脅威」として捉える傾向があるのに対し、若年層ほど「選択肢や活動の効率・自由度を狭める要因」として受け止める傾向がみられます。このような違いを踏まえ、各世代が感じている不安や制約に寄り添った適応アクションの設計が必要になると考えられます。本調査は、そうした違いや新たな需要を認識するための出発点となりました。気候変動への対応を単なるリスク対策にとどめるのではなく、 生活者の価値観に即した新たな価値創造の契機として捉えていく視点も必要なのではないでしょうか。

【調査概要】

・目　　的：気候変動がもたらす生活の変化に関する生活者意識の実態把握
・対象エリア：日本全国
・対象者条件：15～79 歳
・サンプル数：10000※2
・調 査 手 法：インターネット調査
・調 査 期 間：2025 年 12 月 9 日～12 月 11 日
・調査委託先：株式会社電通マクロミルインサイト

※1　アンケートなどのカテゴリデータについて、回答者の属性や回答項目同士の関係性を、相対的な位置関係として可視化する分析手法。

※2　性別×年代で人口構成比回収を実施。

以上

【リリースに関する問い合わせ先】
株式会社電通コーポレートワン　ブランディングオフィス　広報室　広報部
河南、前橋、永野、長谷川
Email：koho@dentsu.co.jp

【調査に関する問い合わせ先】
株式会社電通　dentsu carbon neutral solutions 事務局
竹嶋、藤、荒木
Email：dentsu_carbon_neutral@dentsu.com